

製品安全データシート

1-デカナール

作成 : 2018/12/27

改訂 : 2022/3/28

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称 1-デカナール、C-10、デシルアルデヒド
会社名 Eternis Fine Chemicals UK Ltd.
住所 Macclesfield Roa, Leek, Staffordshire ST13 8LD UK
電話番号 +44 (0) 1538 392180
メールアドレス sdsadvice@eternis.co.uk
緊急連絡先番号 +44 (0) 1273 289454

販売代理店 サンケミカル株式会社
住所: 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング
電話番号 03-3661-6681
FAX 03-3661-7055
メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp
HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意
特定の勧告用途は確認されていない。

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類
物理化学的危険性: 区分外

健康に対する有害性:
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2 H319

環境に対する有害性:
水生環境有害性 長期(慢性) 区分3 H412

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル

● 注意喚起語 警告

● 危険有害性情報

H319 強い眼刺激。
H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

● 注意書き

【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。

P264 取扱い後は汚染された皮膚をよく洗うこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。



P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断／ 手当てを受けること。
P501 国の規則に従って内容物／ 容器を廃棄すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 純品
化学名又は一般名 1-デカナール
別名 デカナール
化学特性
CAS番号 112-31-2
成分及び濃度又は濃度範囲(含有率) 99%
官報公示整理番号(化審法、安衛法) 2-494
GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

物質	CAS	化審法	安衛法	%	備考
1-デカナール	112-31-2	2-494	2-494	99	
デカ-1-エン	872-05-9	2-27	2-27	0.2	
1-オクタナール	124-13-0	2-494	2-494	0.2	
デカン-1-オール	36729-58-5	2-217	2-217	0.1	
2,5,7,8-テトラメチル-2-(4,8,12-トリメチルトリデカン-1-イル)クロマン-6-オール	10191-41-0	9-864	8-(4)-651	0.~0.1	安定剤

▲ 項目4 応急処置

吸引した場合

新鮮な空気の場所に移動して、暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。
襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。
呼吸が困難な場合には適切な訓練を受けた人員が酸素投与を行って補助してもよい。
意識のない者は横向きの体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。

皮膚に付着した場合

水で洗うこと。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗うこと。コンタクトレンズがあれば取り外し瞼を大きく広げること。
少なくとも10分間洗い続けること。

飲み込んだ場合

口を水で十分にすすぐこと。小さなコップ数杯分の水を飲ませること。
嘔吐すると危険な場合があるので、嘔吐しそうになったら止めること。
医療関係者の指示がない限り無理に吐かせてはならない。
嘔吐した場合には、嘔吐物が肺に侵入しないよう頭を低くしておかなければならない。
意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。
意識のない者は横向きの体位に寝かせて呼吸していることを確認すること。
気道を開いた状態に維持すること。襟、ネクタイまたはベルトのような体を締め付ける衣類を緩めること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状
詳細な徴候及び症状は、項目11-有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護
医師に対する特別な注意事項

応急処置を行う者は救助活動中は常に適切な保護具を着用しなければならない。被災者から汚染された衣類を取り除く前に水でよく洗うか、手袋を着用すること。
人工呼吸を行うことは応急処置を行う者にとって危険な場合がある。

項目5 火災時の措置

職場のあんぜんサイトより引用
消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の措置に関する 特有の危険有害性	引火性の高い液体および蒸気。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	適切に訓練されていない場合または何らかの人的リスクを伴う場合には いかなる活動も行ってはならない。 この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。 流出物の取扱い後は十分洗うこと。緊急時の汚染除去および 廃棄の手順および訓練が適切であることを確認すること。 流出した物質に触れたりその中に踏み込んだりしないこと。 区域から避難すること。適切に換気すること。 流出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。 直ちに汚染された全ての衣類を脱ぐこと。
環境に対する注意事項	水にわずかに溶ける。水性毒性の発生する可能性は低い。 大量または頻繁な流出は環境に対して危険有害性影響を及ぼすおそれがある。 不燃性、吸収性の材料に流出物を吸収させること。 排水管または水路あるいは地表への放出を防止すること。 水生環境への放出を防止すること。 大規模流出：環境汚染(下水道、水路、土壌または大気)が発生した場合 には関係官庁に報告すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。 直ちに流出物を片付けて廃棄物を安全に廃棄すること。 溢流を拭き取るのに使用される吸収材料は、十分に浸潤させ、密閉された 金属製容器に入れて廃棄しなければなりません。 安全に対処できるなら着火源を除去すること。流出の近くでは喫煙、 火花またはその他の着火源は厳禁。風上から流出物に近づくこと。 小規模流出：流出物を不活性の、乾燥した物質に吸収させてから 適切な廃棄物処理容器に入れること。 大規模流出：漏洩を止められない場合には、区域から避難すること。 流出した物質を排水処理場に洗い流すか、以下の通りに処理すること。 砂、土またはその他の不燃材料で流出物を封じ込めて吸収させること。 廃棄物をラベルの貼られた、密閉容器に入れること。 環境規則を遵守しながら、汚染された物体および区域を入念に浄化すること。 汚染された吸収剤は流出した物質と同じ危険有害性を示すおそれがある。 された区域を多量の水で洗い流すこと。流出物の取扱い後は十分洗うこと。 環境に対して危険。排水路に流してはならない。 現地の廃棄物管理当局の規定に従い廃棄物を廃棄すること。

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策 (局所排気、全体換気)	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、 保護具を着用する。 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
-----	----------------------	---

安全取扱注意事項	<p>製造業者から提供される推奨事項を読みこれに従うこと。 この安全データシートの項目8に記載の防護衣を着用すること。 飲食物、動物用飼料から離して保管する。 流出を最小限に抑えるためにすべての包装および容器を慎重に取り扱うこと。 使用しないときは容器を厳重に密閉しておくこと。 ミストの形成を避けること。製品は可燃性/引火性である。 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。 禁煙。</p> <p>取扱中に引火性/爆発性の蒸気-空気混合物を生成することがある。 蒸気は床の上および低所に蓄積するおそれがある。 防爆型の電気機器、換気装置及び照明機器を使用すること。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気に対する予防措置を講ずる。 水生環境への放出を防止すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 保護具を着用せずに破損した容器を取り扱わないこと。</p>
接触回避	「10. 安定性及び反応性」を参照。
衛生対策	<p>皮膚が汚染された場合は直ちに洗うこと。汚染された衣類を脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 各作業シフトの終了後および飲食、喫煙およびトイレの使用前に洗うこと。 毎日作業場を出る前に作業服を交換すること。</p>
保管	<p>安全な保管条件</p> <p>混蝕危険物質(項目10を参照)から遠ざけて保管すること。 現地の規則に従って保管すること。すべての点火源を排除すること。 静電気に対する予防措置を講ずる。容器および移送装置をアースして 静電気による火花を排除すること。 酸化性物質、熱および炎から遠ざけておくこと。</p> <p>最初の容器中でのみ保管する。容器を密閉して換気の良い冷所に保管する。 容器を立てておくこと。容器が破損しないよう保護すること。</p>

保管設備の周囲に防液堤を築いて流出時の水質汚染および土壌汚染を防止すること。保管区域の床は漏れない、継ぎ目のない非吸収性のものでなければならない。IBCは直射日光や高熱の場所を避けて保管してください。

安全な保管保管包装材料 Suitable storage material - 316 Stainless Steel.
適切なシール - パーフルオロエラストマー(カルレッツ)。
適切なガスケット - 316ステンレス鋼または石綿の使用されていないアラミド繊維合成物でサポートされているグラファイト。

貯蔵タンクにはフレイムトラップが必要です。
排水管および/または水路への放出を防止するために他と区別され防液堤で囲まれた区域に保管すること。

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版) 未設定
ACGIH(2005年) 未設定

設備対策

適切に換気すること。換気または他の管理手段の効果および/または呼吸用保護具の必要性を判定するために個人、職場環境または生物学的なモニタリングが必要になる場合がある。一次手段として行程囲壁、局所排気装置またはその他の設備対策を使用して労働者の暴露を最小限に抑えること。

個人保護装置は設備対策措置で労働者暴露を適切に防止できない場合にのみ使用すること。防止手段の定期的な検査と保守が行われていることを確認すること。労働者が暴露を最小限に抑えるよう訓練されることを確認すること。設備対策にはガス、蒸気または粉塵濃度を爆発下限界濃度未満に維持することも要求される。防爆型の換気装置を使用すること。

保護具

呼吸用保護具

承認された規格に適合した呼吸用保護具を着用すること。全ての呼吸用保護具が意図した使用に適していることを確認すること。呼吸マスクが顔面に密着することおよびフィルタが定期的に変換されていることを点検すること。

フルフェイス式呼吸用保護具。

次のカートリッジを装着した呼吸マスクを着用すること: 有機蒸気フィルタ。

手の保護具

承認された規格に適合した耐薬品性の、不浸透性手袋

推奨手袋はJIS T8116: 2005。
手袋の製造業者が明記したデータを考慮し、使用中に手袋が保護性を維持しているかを確認して何らかの劣化が認められた場合には直ちに交換すること。

眼の保護具

リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。

眼および顔面を適切に保護する個人用保護具を着用しなければならない。顔面に密着する、化学物質飛沫ゴーグルまたは保護面を着用すること。吸入危険有害性がある場合には、代わりにフルフェイス型呼吸マスクが必要になる場合がある。

皮膚及び身体の保護具

特別な注意事項

洗眼ステーションおよび安全シャワーを設けること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。装置および作業区域を毎日掃除すること。優良個人衛生手順を実行しなければならない。各作業シフトの終了後および飲食、喫煙およびトイレの使用前に洗うこと。取扱中は飲食禁止および禁煙。産業医による予防医学健診を実施しなければならない。製品のあらゆる危険有害性特性について浄化要員

に警告すること。

項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	無色～淡黄色
臭い	果実臭
融点・凝固点	データ無し
沸点、初留点及び沸騰範囲	215.85°C @101.3 kPa OECD103
可燃性	可燃する
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	決定されていない
引火点	93°C クローズドカップ
自然発火点	200°C
分解温度	決定されていない
pH	データ無し
動粘性率	2.3 cSt @20°C
蒸発速度	決定されていない
溶解度	29.4mg/l 水 @25°C
n-オクタノール/水分配係数	log Kow :3.5
蒸気圧	8.2Pa @20°C OECD104
密度及び/又は相対密度	0.828g/cm ³ @20°C OECD109
相対ガス密度	決定されていない

その他データ

分子量 156.27

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	空気にさらされると、徐々に酸化します。
化学的安定性	標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。
危険有害反応可能性	規定された保管条件下では安定。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	熱、火花およびその他の着火源を避けること。 過剰な圧力増大が生じるので、容器は加熱すると激しく破裂または爆発することがある。静電気および火花の発生を防止しなければならない。 容器を加圧、切断、溶接、穴開け、研削したり熱や着火源に暴露しないこと。
混触危険物質	酸化性物質。酸 - 酸化性。
危険有害な分解生成物 その他	推奨事項に従って使用および保管した場合には分解しない。 有害なガスまたは蒸気を発生するおそれがある。

★ 項目11 有害情報

オリジナルのSDSのデータより引用

急性毒性 LD50 mg/kg	33,320
生物備考	ラット 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

経皮 LD50 mg/kg	4,173
---------------	-------

皮膚腐食性及び
皮膚刺激性

用量 0.5ml、 4時間 、ウサギ紅斑
かさぶたスコア:明確な紅斑(2) 11日の範囲内で完全に可逆的。
浮腫スコア:非常にわずかな浮腫 かるうじて認識可能(1) 11日の範囲内で完全に可逆的

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性

用量:0.1ml、 <14日 、ウサギ
角膜スコア:0
虹彩スコア:0
結膜スコア:2
結膜浮腫スコア:2刺激臭。

OECD 405。

呼吸器感作性又は皮膚感作性
利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

生殖細胞変異性
遺伝毒性- in vitro 遺伝子突然変異 陰性
遺伝毒性- in vitro 染色体異常:陰性 OECD474

発がん性 データ無し

生殖毒性
生殖能 1世代試験 無毒性量(NOAE) 200mg/kg KW/日、経口、ラット 読み取り法
発生 母体毒性 科学的に正当化されない。

特定標的臓器毒性、単回曝露
特定標的臓器毒性 単回曝露後の特定標的臓器毒性には分類されない。
(STOT)－単回ばく

特定標的臓器毒性、反復曝露
特定標的臓器毒性 無毒性量(NOAE) 20000ppm, 経口, ラット OECD 408。
(STOT)－反復ばく

吸引性呼吸器有害性 利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。

その他

項目12 環境毒性情報

生態毒性

魚類 LC50 96時間:1.45mg/L ニジマス OECD203

水生無脊 EC50 24間:2.36mg/L 大ミジンコ

椎動物 LC50 48時間:1.17mg/L 大ミジンコ OECD202

水生生物 EC50 72時間:4.5mg/L Pseudokirchneriella subcapitata

無影響濃度(NOEC) 72時間:0.759mg/L Pseudokirchneriella subcapitata OECD201

微生物 無影響濃度(NOEC) 72時間:70mg/L 活性汚泥

EC50 3時間: 31.6mg/L 活性汚泥 OECD209

残留性・分解性 物質は易生物分解性である。

生分解 水一分解 18%:1日
水一分解 50%:7日
水一分解 76%:21日
水一分解 82%:28日
OECD 301F

生体蓄積性 生物濃縮係数(BCF):190
魚類 BCFBAF™ v3.01

分配係数 log Kow:3.5 OECD117

土壌中の移動性

移動性 製品の一部水溶性であり水生環境中に広がるおそれがある。

吸着/脱着係数 土壌- Log Koc:2.9

表面張力 59.9 - 60.1 mN/m@18.2 ±0.5°C OECD 115

オゾン層への有害性

他の有害影響 知られていない。

▲ 項目13 破棄上の注意

残余廃棄物

汚染容器及び包装

可能ならば製品を再使用または再利用すること。
余剰製品および再利用できない製品は認可を受けた廃棄物処理請負業者を介して廃棄すること。

この製品、プロセス溶液、残渣および副産物の廃棄は常に環境保護と廃棄物処理に関する法令の要件および全ての地方管轄当局の要件を遵守して行わなければならない。廃棄物を取り扱う際には、製品の取り扱いに適用される安全措置を考慮しなければならない。

空の容器または内張りには多少の製品残渣が付着していることがあるため危険有害性の可能性がある。

排水路に流してはならない。
廃棄物、残渣、空の容器、捨てられた作業着および汚染された浄化材料は指定された容器に集め、内容物を示すラベルを貼らなければならない。

焼却または埋め立ては再利用が不可能な場合にのみ検討すること。
残留した製品からの蒸気は容器内に引火性の高いガス体または爆発性のガス体を生成させるおそれがある。
爆発のリスクがあるので容器は廃棄前に完全に空にしなければならない。
内部を十分に洗浄している場合を除き使用済み容器を切断または溶接しないこと。

項目14 輸送上の注意

国際規制

国連番号

3082

品名(国連輸送名)

環境有害物質(液体)

ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID,

国連分類

9

(輸送における危険有害性クラス)

容器等級

III

海洋汚染物質

該当 P

(該当・非該当)

MARPOLによるばら積み輸送される液体物質

非該当

(該当・非該当)

国内規制

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
輸送に際しては、直射日光を避け、
容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、
荷崩れの防止を確実にを行う。

応急措置指針番号

171

その他

項目15 適用法令

法令の名称を含む関係法令情報

化管法

現在非該当。第一種指定化学物質 1-294(2023年4月1日以降は該当)

安衛法

2022年3月 通知表示対象物質 非該当

2025年4月 通知表示対象物質 該当

毒劇法

非該当

火薬類取締法

非該当

高压ガス保安法

非該当

消防法

第4類引火性液体、第3石油類 非水溶性液体(2000L)

化審法

既存化学物質

船舶安全法

有害性物質(正9容器等級3)

航空法

有害性物質(S等級3)

バーゼル法

非該当

外為法

別表1の第16項

港則法

非該当

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルMSDS
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE
職場のあんぜんサイト
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用を目的としたものではありません。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

2019年改正JIS Z7252/Z7253

★

リスクアセスメント必須事項

●

ラベルに記載する情報

▲

安衛法ラベルの注意書きの項目

(但し、ラベルに全て載せる必要はない)